

## 高校書道 専門問題例

例一 次の(1)～(7)の文の( ① )～( ⑮ )に入る適切な語句を漢字で書きなさい。

- (1) 一九七五年、湖北省雲夢縣睡虎地から出土した戦国末から秦に至る竹簡の書体を特に( ① )といい、これによって秦時代に使用された標準書体の実相が明らかになった。
- (2) 隋時代、王羲之七世の孫といわれた( ② )は千字文を八百本書いたといわれる。北宋の書は大別して、前期の復古主義と後期の革新主義とに分けることができる。太宗の時『( ③ )』が作られたが、これは唐以前の名跡をまとめた集帖である。しかし、宋時代の書壇の中心となったのは、蘇軾、( ④ )、( ⑤ )であり、彼らを宋の三大家と呼ぶ。
- (4) 清朝の包世臣は、若くして書法を鄧石如に学び、のちに( ⑥ )法を案出し、著書『( ⑦ )』、『安吳論書』でその理論を展開した。
- (5) 平安時代に入ると草仮名が盛んに使われ、中期になるとさらに簡略化した( ⑧ )と呼ばれる平仮名へと発展した。草仮名の代表的筆跡として伝小野道風の『( ⑨ )』がある。
- (6) 高野切は、『( ⑩ )』の現存最古の写本で、麻紙に雲母砂子を撒いた( ⑪ )に書かれている。筆者は三人からなる( ⑫ )と考えられている。
- (7) 幕末の三筆に挙げられ、阿波出身の儒者・書画家に( ⑬ )がいる。また、明治の三筆として( ⑭ )、( ⑮ )、巖谷一六が挙げられる。

例二 次の(1)～(3)の用語について、簡潔に説明しなさい。

- (1) 三色紙
- (2) 三跡
- (3) 印影

例三 行書の主な特徴を、楷書と比較して三つ書きなさい。

( H 28 )

例四 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) ①～④の漢字を常用漢字の楷書で書きなさい。

①	省 略	②	省 略	③	省 略
④	省 略	⑤	省 略	⑥	省 略

(2) ①・②の変体仮名の読み方を平仮名で書きなさい。

①	省 略	②	省 略
---	--------	---	--------

( H 28 )

例五

次の図版は、ある古典の一部である。(1)古典名、(2)筆者を漢字で書きなさい。また、この古典の特徴を(3)書風、(4)字形、(5)線質の観点から、それぞれ簡潔に書きなさい。

図版省略

例六 高等学校学習指導要領「芸術」の「第11書道Ⅱ」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は「2 内容 A表現 (1)漢字仮名交じりの書」における指導事項である。文中の(1)～(5)にあてはまる語句を書きなさい。

- ア (1)に即した表現と用具・用材の関係を工夫すること。
- イ (2)の鑑賞に基づき表現を工夫し、(3)的に表現すること。
- ウ 表現形式に応じて、全体の(4)を工夫すること。
- エ (5)や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。

(2) 次の文は「2 内容 B鑑賞」における指導事項である。文中の(1)～(5)にあてはまる語句を書きなさい。

- ア 書の美の(1)を把握し、その表現効果について理解し、(2)を深めること。
- イ 書の美と時代、(3)、筆者などのかかわり、その表現方法や(4)等について理解を深めること。
- ウ 日本及び中国等の書の歴史・文化と書の(5)について理解を深めること。

(H 28)

例七 次の文章(近現代文)を読んで、(1)～(6)に答えなさい。(本文省略)

(1) 波線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。  
傍線部Aを、例にならって単語に分けなさい。

(例) 花が一咲く。

(2) 傍線部B「展開」と熟語の構成が同じものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 湖畔
- イ 拍手
- ウ 雷鳴
- エ 敢行
- オ 堆積

(3) 傍線部C「半市場経済」とはどのような営みであるか、市場経済と対比させて、五十字以上六十字以内で答えなさい。

(4) 傍線部D「坐禅」の「坐」を漢和辞典で調べるとき、音訓索引であれば、音読みの「ザ」、又は訓読みの「すわる」の七画目を探すとよい。他の二つの索引の名前と調べる手順をそれぞれ答えなさい。

(5) 傍線部E「普通のゲストハウス」とあるが、普通のゲストハウスの場合、なぜ困るのか。二十字以上三十字以内で答えなさい。

(H 29)

例八 次の文章は、藤原実資について書かれた一節であり、本文中の「この殿」、「頭中将」、「頭」は藤原実資のことである。これを読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

この殿、若くより賢人のひとすぢのみならず、思慮のことに深く、情け、人にすぐれておはしけり。

円融天皇の御時、頭中将にて、殿上に候ひ給ひけるに、式部丞蔵人藤原貞高といふ人、大盤につきたるが、頓死したりけるを、頭、奉行にて、奏司下部を召して、かき出させられけるに、「何方より出づべきぞ」と申しければ、「東の陣より出づべきぞ」と行はれけるに、蔵人所の衆、滝口、出納、御倉、女官、主殿司、下部どもにいたるまで、そこらのものども、これを見むとて、東の陣へ競ひ集まるほどに、「殿上の畳ながら、西の陣より出せ」とのたまひければ、ひき違へて、西より出しければ、見るものなくて、陣の外へ出でたるを、父三位来て、むかへ取りてけり。

そののち、十日ばかりして、頭中将、夢に蔵人、内に参りあひぬ。「死の恥を隠させ給ひたる、よにも忘れがたし。東より出でましかば、多くの人に見えなまし」といひて、手をすりて、泣く泣く喜ぶと見えけり。

公任卿、この殿を聲にとりて、はじめに入れ申されける時、朗詠上下卷えらびて、置物の厨子に置かれたりける、ゆゆしき聲引出物にこそ。

(『十訓抄』より。)

(注) 「大盤」 〓 食事を乗せる台 「奉行」 〓 命を受けて物事を執行する人

「奏司下部」 〓 奏司は曹司(宮中にあった官人や女官の部屋)、下部は下働きの者

「蔵人所の衆、滝口、出納、御倉、女官、主殿司」 〓 いずれも下級役人

「父三位」 〓 藤原貞高の父、藤原実光 「公任卿」 〓 藤原公任 「聲」 〓 婿

(1) 傍線部①の敬語について説明した次の文の[A]～[D]にあてはまる語句を、ア～キから選び、記号で答えなさい。

・「候ひ」は[A]への敬意を表す[B]で、「給ひ」は[C]への敬意を表す[D]である。

ア 円融天皇 イ 藤原実資 ウ 藤原貞高 エ 作者

オ 尊敬語 カ 謙譲語

キ 丁寧語

(2) 傍線部②～④の漢字の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

傍線部⑤を現代語訳しなさい。

(3) 傍線部⑥は、藤原公任が朗詠に適している和歌や漢詩を編纂した歌謡集のことである。

その作品名を「朗詠」を含む漢字五字で答えなさい。

(5) 傍線部⑦について説明した次の文章の[E]～[G]に入る二字ずつを答えなさい。ただし、[E]・[F]には漢字、[G]にはひらがなが入る。

・「ゆゆしき」は「E」な」と訳せることから、作者がこの引出物をどう評価していたかが分かる。係助詞「こそ」によって[F]され、文末には「G」が補える。

(6) 本文では、藤原実資が、「思慮」、「情け」も秀でていたと書かれているが、急死した藤原貞高を外に運び出す際、(a)どのような思慮深い行動を、(b)どのような情け深い理由から行ったか。本文中の言葉を使ってそれぞれ二十字以上三十字以内で答えなさい。

例五					例四		例三	例二			例一						問題番号	
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(2)	(1)		(3)	(2)	(1)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)		(1)
穏やかで、内に力を含んだ線質。	やや外側に膨らみを持たせ整った字形。	伸びやかで品格のある書風。	虞世南	孔子廟堂碑	① へ	② わ	<p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲線が多くなり字形は丸みを帯びる。</li> <li>・点画の連続や省略がある。</li> <li>・筆順が変わることがある。</li> </ul>	(正答例) 紙等に押印したもの。	小野道風、藤原佐理、藤原行成をさす。	<p>(正答例)</p> <p>「継色紙」「寸松庵色紙」「升色紙」のこと。散らし書きによって書かれ、平安時代の仮名の優品である。</p>	⑬ 貫名菘翁 ⑭ 日下部鳴鶴 ⑮ 中林梧竹	⑩ 古今和歌集 ⑪ 料紙 ⑫ 寄合書	⑧ 女手 ⑨ 秋萩帖	⑥ 逆入平出 ⑦ 藝舟双楫	③ 淳化閣帖 ④ 黄庭堅 ⑤ 米芾	② 智永	① 秦隸	正 答

例八						例七						例六			
(6)		(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(2)	(1)	
b	a	E	和漢朗詠集	(正答例) 頭中将(藤原実資)は、夢で、内裏(宮中)に参上して、蔵人(藤原貞高)と出会った。	②	A	(正答例) 宿泊されないと、ゲストハウスとしての経営が成り立たないから。	総画 索引 部首 索引 「土」の部の四画目を探す。	(正答例) 市場経済のように、利益の増大をめざすものではなく、経済活動を行うことによつて、社会的使命を果たそうとする営み。	オ	意志一や一意図一を一背後一に一持つ一ことに一よつて一つくら一れ一て一いく。	①	④ ① 諸要素 形式 ⑤ ② 感受 現代的意義 ③ 風土	④ ① 意図 構成 ⑤ ② 名筆 ③ 個性	
貞高の死に恥を隠そうとする理由。	(正答例) 東の陣から出すと言つて人が集まつてから西の陣から出した行動。 (正答例) 人に見つからないように、藤原	大変(立派)	F 強調		G あれ	くろうど						③			かずかた